

舞台裏

バス通勤をしていた j o y ひこばえ勤務の頃、知らず知らずのうちに乗車客の行動観察をしていました。仕事柄、その行動の裏にどんな心理が隠されているのだろうと仮説を立て、自分なりに分析することが楽しみとなり、人や光、音など、常に動きのある景色と共に眺めていました。油山の麓『いるべ保育園』に異動して早9ヶ月。車通勤となり、「行動観察」が「前方確認」へと変化しました。運転しながら、学校へ急ぐ子どもたちの姿、山々や田んぼの色、風の匂いから、静かな季節の移り変わりを感じる日々です。幼いころの感覚がよみがえり、今までを振り返る時間をもらっているようです。

これまでたくさんの出会いや経験を積み重ね、ご縁や繋がりに支えられここまでやってきました。何より、たくさん子どもたちとの出会いはかけがえのないものでした。子どもの《自分では意識していない輝きのパワー》が、どれほどの感動を与えてくれたことか……。一人ひとりが、成長という坂を、自分のペースで登っていく場面に立ちあえる幸せ。そして、大人の援助によっては、そのペースを乱してしまうことにもなりかねない、立ち会う責任の重さも感じています。

過日の研修報告会で、「応答（おうとう）」についての話がありました。どちらも「こたえる」という意を持ちます。「応」は働きかけに対して添うような反応の意、「答」は相手に対して返事をする事と質問に対する回答の意。読んで字のごとくなのですが、深く考えずに使っていた言葉にハッと気付かされた瞬間でした。今まで出会った子どもたちに、自分は『応える』保育が出来ていただろうか？ 保護者の方々に寄り添いながら、きちんと『答える』ことが出来ていただろうか？相手が納得する答え・相手にわかるような答え・伝えなければならない答え・日々の保育の中での応え。自分の行動や言語分析の必要性に気付かされた報告会でした。

今年も、いるべ保育園や j o y ひこばえの子どもたちに応える保育出来るよう、主任としての役割の重要性を痛感しつつ、職員一丸となって取り組んでいきたいと考えています。

いるべ保育園 主任保育士 古閑久美子